

## 前書き：OECD 既存化学物質初期評価シリーズ

この特集シリーズでは、主に、高生産量（HPV）化学物質について経済協力開発機構（OECD）が実施している初期リスク評価プログラムの進展を紹介している。

このプログラムでは OECD 加盟国と化学産業界が国際的な協働体制の下で、HPV 化学物質について人および環境への影響の初期リスク評価に必要なスクリーニング情報データセット（SIDS）を整備し、定期的に行われる初期評価会議（SIAM）において審議している。

この号では本シリーズの第 7 回目として次を収載した。

松本真理子他 “OECD 高生産量化学物質点検プログラム：第 27 回初期評価会議概要”

この報文によると、OECD/HPV 評価プログラムは 2005 年から 2010 年までの 6 年間に 1,000 物質の初期リスク評価を行うことを目標としたが、2008 年 6 月の時点では 386 物質しか評価が終了しておらず、残りの 624 物質中 188 物質についてはスポンサーも決まっていない状況であった。

そこで最近の活動の特徴として、選択的評価や優先順位設定ツールの使用など新たな評価手法を導入したり、EU、カナダ、アメリカなどの国内評価プログラムの進展を取り入れたりして初期リスク評価を加速化する取組みが活発になってきたとのことである。（文責：星川欣孝）